

活動テーマ

皆野町日野沢地区及び、金沢地区の魅力再発見

皆野町日野沢地区・金沢地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

第一の目的は、地域行事への積極的な参加、協力を行い、自然・文化・社会的資源を再発見、再創造することである。地域には伝統的な行事や豊かな自然が広がっている。それらを支援隊員が肌身で感じる。人がどのように関わって地域がつくられてきたのか、地域の自然や伝統はどうやって受け継がれていくのか。そうした事実を学ぶ取る。その上さらに次の世代へとつなげる知恵や技を再創造する。これらのことを総括し、地域再生の典型となる事例として、本学のカリキュラムづくりに応用する。併せてポストコロナ時代における地域づくりの視点を考察する。

第二の目的は、この活動で得た学びを地域に還元することである。地域の自然を生かして行う農作物の栽培や収穫には、さまざま知恵や技が隠されている。文明社会が築いてきた自然・文化・社会的資源を学び、それらを外部に発信するために実現可能な地域支援の構想（リーフレットやマップ制作等）を地域の方と交流をしながら構築する。

第三の目的は、日野沢地区・金沢地区における地域支援活動のフォローアップである。先輩方が築いてきた成果を受け継ぎつつ、金沢地区では「たたらの里加工センター」で職員の方との交流を深める。日野沢地区では、石木戸道也さん（元皆野町町長）のもとで地域との関わり合いを深め、新たな中山間支援の在り方を検討する。

2 活動地域の現状

皆野町は秩父郡に位置しており、北に埼玉県観光名所である長瀨町、南に埼玉県一の面積を持つ秩父市に挟まれている。自然に多く囲まれた豊かな地域である。面積は 63.74 km²で、2025 年 2 月現在での人口は 8,858 人である。

皆野町には、“美の山公園”、“高原牧場ポピー”、“秩父華厳の滝”、“親鼻橋 SL”、“ハイキングロード”など、自然を存分に生かした観光資源が多くある。また毎年 5 月 3 日に萩神社（金沢地区）にて開催される“つつじ祭り”や毎年 3 月下旬に行われている“カタクリ祭（金沢地区）”など自然にふれるイベント行事がある（令和 2 年から中止、昨年度から再開）。県の有形文化財に登録されている出牛（じゅうし）人形浄瑠璃や秩父音頭発祥の地として知られている。

3 活動内容

今年度は、対象地域である日野沢地区での農作物栽培作業に関わった。ジャガイモの収穫、蕎麦の播種・収穫、その他、地域に根ざした農作物の収穫などである。観光資源として“秩父華厳の滝”、“満願の湯”などの現地調査を実施した。各地域の歴史や文化、現状等について、石木戸道也さんにインタビューした。

石木戸道也さんのご自宅で、地元で捕獲した猪の肉をご馳走になった。鳥獣害被害の対策に関する実情とともに、狩猟によって捕獲した動物の活用方法について検討した。たたら

里加工センター（金沢地区）の事業継承を計画している岡野直樹さんは、ジビエ食材の開発と普及をめざしている。増え続ける農作物への鳥獣害被害対策について考える機会となった。

秩父市や長瀬町を訪れる来訪者向けに、日野沢地区を紹介する目的で作成した“日野沢地区リーフレット（マップ）”の改訂版を制作した。昨年度制作した日野沢マップに加筆し、おすすめの観光スポットに関するモデルルートを3種類開発した。今後、改訂版マップの普及活動に努める予定である。

たたらの里加工センター（金沢地区）では、センターの中心となって活躍してこられた高橋富美子さんへのインタビューを実施した。高橋さんは、センターの設備や備品の管理上の課題から事業継承をお考えになっており、これまでのセンターの歴史を記録しておく必要性を感じた。当日は、すでにガスや水道の止められたセンターで、時間をかけて高橋さんのお仕事を振り返った。今後、聞き書き集などの刊行を目指したい。四方田忠則さん（金沢地区）の聞き書き集は、現在作成途上であり、そのインタビューの記録の一部をまとめ、地域に還元する予定である。

たたらの里加工センターでのインタビューの最中に、センター事業を受け継ぐ予定の岡野直樹さんが偶然訪ねてきた。岡野さんは、皆野町でジビエを活用した食材を製造、販売している。今後、センターの伝統的なお菓子づくりを学び、事業を受け継いでいくとのことである。岡野さんとの連携により、さらに今後の支援の在り方を検討することになる。

支援隊の活動を紹介する大学授業科目を実施することで、かつてふるさと支援隊でお世話になった埼玉県比企郡小川町の腰越上地区において、笠山神社上社の祭に参加することができた。当日は、受講生の学生2名が笠山山頂にある笠山神社上社を参拝し、腰越上地区の福島由博元区長との交流が実現した（11/23）。皆野町の活動では、一般学生の参加があり、蕎麦の収穫作業（日野沢地区）に関わった（11/4）。

4 成果

石木戸道也さん（日野沢地区）を中心として、そのご家族との交流が深まった。しかしながら、思いもかけないことで、石木戸さんが急逝され、ふるさと支援活動が思うように展開できなくなってしまった。それ以降は、昨年度ふるさと支援隊として皆野町に関わった学生たちが金沢地区のたたらの里加工センター職員との交流を実現させるなど、横からの支援があった。突然のことで、ふるさと支援隊に関わる学生たちは、茫然自失というような雰囲気、未だに意気消沈している。昨年度の先輩たちが制作した日野沢マップ（日野沢リーフレット）の改訂版を制作すること、皆野町での交流会（2/2 みなのもち万博）に参加すること、県主催の発表会に参加すること、なかなか困難なことであった。いついかなることが起こるかわからないのが、この世界であるが、親しくお付き合いをさせていただいていた方の急逝は、大きな衝撃だった。心の支えが突然折れてしまったような感じである。幸いにして、石木戸道也さんのご子息たちがこの活動を支えてくださり、蕎麦の収穫や皆野町での交流会などの場で支援隊員がお世話になった。

石木戸さんとの関わりから、支援隊員は農作業を体験する機会を得た。中山間地域の農業として、蕎麦の播種に加えて、今年度は、蕎麦の収穫作業を体験した。普段目にしたことのない農作物の生産が、じつに綿密な計画と、作業と、努力の上に成り立っていることを実感した。

高橋富美子さん（金沢地区）へのインタビューでは、たたらの里加工センターの成り立ちと、その展開過程を学んだ。完全にボランティア活動であり、奉仕活動である。その活動が

地域の柱となっていくプロセスには、実に多くの苦労があった。地域を支え、地域とともに生きるということは、そこに喜びがあり、楽しみがあり、生き甲斐がある。大きな成果となった。

5 課題

予想もしなかった事態が生じ、活動が停滞する。昨年度は、たたらの里加工センターの設備や備品の故障である。今年度は、お世話になってきた石木戸さんの逝去の報である。特に、石木戸道也さんには、金沢地区での四年間の活動（2018～21 年度）が総括され、翌年度からずっと支援隊員につきっきりでご指導をいただいた。早朝からの狩猟体験では、支援隊員の保護者の参加があり、また、支援隊員以外からの一般学生の参加にも臨機応変に対応していただいた。2月2日に開催された皆野町の行事へは、石木戸道也さんのご紹介により、支援隊員がポスターセッションに参加することができた。夏の猛暑の時期に、蕎麦の播種を行ったり、初夏の爽やかなお天気の中でジャガイモの収穫をしたり、長く農業を営んでこられた石木戸さんならではの知恵や技、カンやコツなどのお話を伺った。11 月には栽培していたしゃくし菜の収穫時期を迎え、収穫しに来るようにとの連絡をいただいた矢先であった。長きにわたり、皆野町の町政の中心でもあった石木戸さんが、この町にかける意気込みは本当に凄まじいものがあった。まだまだお話を伺いたいと思っていただけに、本当に残念である。

6 次年度以降の計画

これまでの活動を踏まえて、金沢地区におけるたたらの里加工センターの事業継承に立ち会い、岡野さんによる新たなお仕事の展開から学ぶ。金沢地区では、四方田忠則さんが干し芋づくりに打ち込んでいるので、そのお仕事の展開についても学修したい。

日野沢地区においては、石木戸道也さんのご子息、純治さんとの交流により、道也さんが残した農場でのお仕事をさらに深める。地域資源の発掘や再認識、再創造につとめていきたい。特に、鳥獣害への対策に関しては、ジビエ食材の開発に携わっている岡野さんとの交流があり、今後、食材としての価値をいかに広めていくかについて勉強したい。

秩父地域を訪ねてくる来訪者への関わり合いについて、改訂したマップの活用をはかり、同時に、利用者の声に耳を傾ける活動を検討したい。特に、高齢者層のハイキングが盛んであり、狩猟体験の際にはそれが制約となっているという実情を伺った。観光と生活との両立というテーマがさらに浮かび上がってきている。今後の検討事項としたい。



6/20 石木戸さんと交流



6/27 ジャガイモ収穫



8/21 蕎麦の播種



11/4 蕎麦の収穫



11/26 加工センター



2/2 みんなのまち万博